



旭化成の知的財産部門における生成AI活用戦略の分析

Gemini Deep Researchによる分析

📌 知的財産×AIによる企業価値の最大化

目次

- 1  エグゼクティブサマリー
- 2  旭化成の戦略的背景
- 3  生成AIの実践：知的財産部門での活用事例
- 4  成功の枠組み：ガバナンス・技術・人材
- 5  課題と考慮事項
- 6  戦略的展望と提言

知的財産におけるAI活用の新時代

エグゼクティブサマリー

- ◎ 旭化成はDX戦略の核心に「**無形資産の活用加速**」を据え、**生成AI**をその実現に向けた重要な駆動力と位置づけ
- ⚙️ 特許作成支援や新規用途探索など専門性の高い業務において、社内データを用いたファインチューニングを施した自社専用生成AIを活用
- 📈 単なる業務効率化ではなく、既存IP基盤と無形資産の価値を最大化するための**戦略的投資**として位置づけ
- ⚖️ 「**積極性と安全性の両立**」を基本方針とし、イノベーション推進とリスク管理を両立させる強固な**ガバナンス体制**を構築
- ❗ 精度、機密性、法的複雑性など**生成AI特有の課題**への対応策を実施しながら、将来の競争優位性確立を目指す

「知的財産×生成AI」による無形資産価値の最大化

旭化成の戦略的背景



「デジタルノーマル期」へ向けたDXビジョン

2024年以降を「デジタルノーマル期」と位置づけ、**段階的なDX戦略**で先進技術を組織全体へ浸透



積極性と安全性を両立した生成AI推進

イノベーション推進と**リスク管理の両立**を図り、生成AIを知的財産価値向上の戦略的推進力として活用



知的財産と無形資産の中心的役割

知的財産を**企業価値の中核**と位置づけ、生成AIを活用した**無形資産の価値最大化**と**競争優位性の確立**を推進

“ 戦略的位置づけ

生成AIは単なるツールではなく、知的財産戦略を進化させ
企業の将来価値を創造するための戦略的資産

生成AIの実践：知的財産部門での活用事例



特許作成・権利化プロセス

- 社内データでファインチューニングされた自社専用AIモデル
- 明細書作成の**効率化・品質向上**
- 先行技術との**差別化ポイント自動抽出**



IPアナリティクス・ランドスケープ

- 特許情報の**高度な意味解析**と可視化
- **競合動向・技術トレンド**の迅速な把握
- 経営戦略に直結する**IPインテリジェンス強化**



材料新規用途探索・隣接領域

- 既存材料の**未知の応用可能性を発見**
- 技術資産の**多角的活用機会の創出**
- **クロスドメインアイデア**による事業拡大



IPワークフローの効率化

- 特許調査・分類の**自動化・高速化**
- 多言語特許情報の**翻訳・要約生成**
- IP専門家の**戦略的業務へのリソースシフト**

💡 **戦略的特徴：** 単なる効率化ツールではなく、IP価値創造と事業拡大の戦略的推進力として生成AIを位置づけ

成功の枠組み：ガバナンス・技術・人材

旭化成の生成AI活用成功を支える三位一体の枠組み



ガバナンス

- **専任組織**による全社的AI戦略統括
- **ガイドライン**と利用ポリシーの徹底
- **リスク管理体制**の構築
- 利用状況の**モニタリング**と評価
- 経営層の**コミットメント**



技術基盤

- **社内データ活用**によるモデル調整
- 社内**IP情報システム**との統合
- 安全性と精度を両立する**アーキテクチャ**
- **ハイブリッド**システム構成
- 継続的な**技術評価**と改善



人材育成

- 全社員向け**AIリテラシー**教育
- 知財部門向け**専門トレーニング**
- **AI×IP**のハイブリッド人材育成
- 先端ユーザーによる**コミュニティ**
- 生成AIによる**創造性拡張**モデル

相乗効果

💡 **成功の鍵**：3つの要素を統合的に機能させることで、生成AIの能力を最大限に活用

課題と考慮事項

生成AI活用における主要課題と旭化成の対応策



精度と信頼性

AIハルシネーション、情報の正確性、バージョン管理の課題

対応

人間による検証プロセスの導入と学習データ最適化



機密保持とセキュリティ

企業秘密の漏洩リスク、AIモデルへのデータ転送時の脆弱性

対応

オンプレミス型AIの活用と多層セキュリティ構造



法的課題

著作権問題、発明者適格性、学習データの権利関係

対応

法務部門との連携と利用ガイドラインの明確化



システム統合の複雑性

既存IP管理システムとの連携、データ形式の互換性

対応

API連携基盤の整備と段階的導入アプローチ



人材育成と組織変革

AI活用スキル不足、変化への抵抗、新しい役割定義

対応

体系的教育プログラムと実践コミュニティ形成



将来的な課題

技術の急速な進化、規制環境の変化、競合企業の動向

対応

継続的なモニタリングと柔軟な戦略調整体制

💡 重要ポイント：生成AIの導入は技術的課題だけでなく、組織文化や法的側面を含む総合的アプローチが成功の鍵

戦略的展望と提言

旭化成の軌道と方向性

旭化成はデジタルノーマル期へと進化する過程で、知的財産部門を無形資産価値の創出中心へと位置づけている。生成AIは両輪戦略で展開され、業務効率化だけでなく、IP価値の拡大と新規事業創出を加速させる 戦略的取り組みとして継続的に推進。

リーダーシップ維持のための主要提言

 **IP-GenAIモデルの独自開発**
社内知識を活かした特化型AIモデルの構築

 **プラットフォーム統合**
IP管理システムとAIツールのシームレスな連携

 **ハイブリッド人材育成**
IP専門知識とAI技術を併せ持つ人材の体系的育成

 **法制動向への積極関与**
AI関連の法規制や標準化活動への参画

生成AI時代のIP専門家の役割進化

 **戦略的アドバイザー**
技術と経営の架け橋としてビジネス価値創出を主導

 **AI-人間協業の設計者**
AIと人間の強みを最適化する業務プロセスの設計

 **イノベーション触媒**
AIを活用した新たな知的資産価値創出の推進

“ 生成AIは単なるツールではなく、知的財産機能の**戦略的変革エンジン**として 旭化成の持続的競争優位性を強化する原動力となる

まとめ



旭化成の知的財産×生成AI活用の全体像

旭化成は段階的なDX戦略のもと、知的財産部門を無形資産価値創造の中心に位置づけ、社内データによるファインチューニングされた生成AIを特許作成・権利化から新規用途探索まで幅広く活用。積極性と安全性の両立という基本方針で、業務効率化と戦略的価値創出の両輪を推進。



戦略的投資

単なるコスト削減ではなく
無形資産価値最大化への
長期的投資



統合アプローチ

ガバナンス・技術・人材の
三位一体の枠組みで
持続的成功を実現



進化する価値

IPとAIの融合による
イノベーション創出と
競争優位性の確立



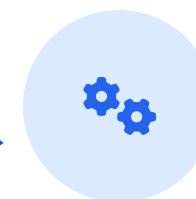
今後の展望

生成AIとIPの融合は戦略的な進化を続け、特許業務の効率化を超えた価値創造の起点へと発展。IP-GenAIモデルの独自開発、プラットフォーム統合、ハイブリッド人材育成を通じて、旭化成の知的財産部門は業界リーダーとしての地位を強化。

生成AI時代のIP価値創造サイクル



収集・分析



生成・創造



活用・拡大

生成AIは単なるツールではなく、知的財産部門における戦略的変革エンジンとして 旭化成の持続的競争優位性と企業価値向上の原動力となる